

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和3年7月号

令和2年度における農地中間管理事業の実績

公益社団法人千葉県園芸協会
農地部（千葉県農地中間管理機構）

令和2年度の農地中間管理事業は新型コロナウイルスの影響により賃借の実績が伸び悩みましたが、累計では5千haを超えました。本年度も引き続き厳しい情勢が続きますが、当協会においても皆様に御活用いただけますよう、更なる事業推進に努めて参りますのでよろしくお願い致します。

1 令和2年度について

7年目を迎えた令和2年度の農地中間管理事業の実績は、全県で927haを借り受け、986haの貸し付けが年度内に行われました。前年度の実績と比較すると、借り受けが約3割増（令和元年度738ha）となり、貸し付けは3割増（令和元年度778ha）となりました。また、累計の面積は借り受け（5,746ha）、貸し付け（5,101ha）ともに5千haを超えました。

2 各地域について

各地域における賃借実績については多くの地域で前年度を下回るか、ほぼ同様となりました。このことは、新型コロナウイルスの影響により地域での話し合いや農家宅への訪問が困難となったことが大きな要因と思われる。多くの地域で前年実績を下回る中、前年を大きく上回る地域もありました。増加の要因としては、農地利用集積円滑化事業による新規や更新契約が令和2年度をもって終了となるため、その分が農地中間管理事業に移ったものです。

3 貸付先について

貸付先の区分としては認定農業者が77%（759ha）、市町村の基本構想到達者が10%（95ha）、認定新規就農者が3%（29ha）、その他が10%（109ha）と9割が担い手となり、その内、新たに担い手に集積された面積は556haとなりました。なお、経営区分としては個人が70%、法人が30%となりました。また、農地中間管理事業を利用して新規に就農（参入）した経営体は18件で、貸付面積は合計で4.8haでした。

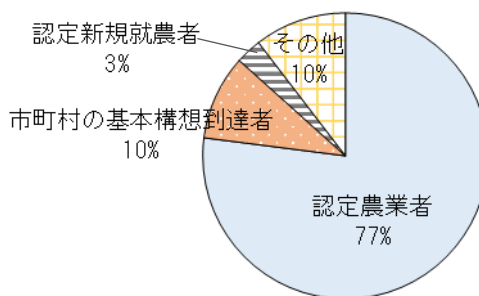
4 基盤整備等について

一定期間以上の農地中間管理権が設定されている農地について、農業者の申請及び同意、費用負担によらず、基盤整備が行える「農地中間管理機構関連農地整備事業」については、1地区が令和2年度採択となり、現在計3地区で実施中となっています。また、簡易な整備を行う際に、耕作者に対して助成する「農地耕作条件改善事業」については、8地区（計41ha）実施し、4地区（16ha）完了しました。

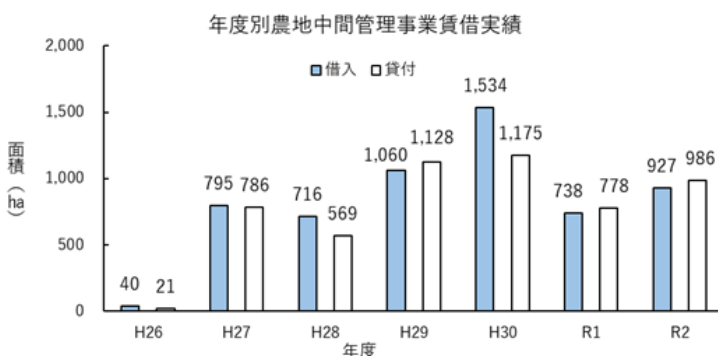
5 おわりに

今年度も引き続き新型コロナウイルスの影響により、厳しい状況となっておりますが、関係機関と連携し、皆様が農地中間管理事業を御利用できるような事業推進に努めて参りますので、よろしくお願い致します。

また、県内10農業事務所に支部職員が計13名駐在しておりますので、お気軽に御相談ください。



令和2年度農地中間管理事業貸付先面積割合



地域別賃借面積 (ha)

地域	借入		貸付	
	R1	R2	R1	R2
千葉	68.9	28.3	76.3	34.7
東葛飾	42.7	37.9	38.8	41.8
印旛	90.8	196.2	137.4	211.3
香取	149.9	334.1	146.7	316.2
海匠	68.1	58.2	78.7	70.6
山武	151.4	83.1	146.8	102.4
長生	69.4	33.3	74.6	38.3
夷隅	16.8	4.7	10.6	8.1
安房	61	52.3	42.0	64.9
君津	19.1	99.8	23.3	98.5
計	738.1	927.9	775.2	986.8



北総地域に適する秋冬どりニンジンの優良品種の選定

千葉県農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所
畑地利用研究室 研究員 山下 雅大

令和元年に開催された秋冬どりニンジンの千葉県野菜品種審査会において、収量性が高く、外観品質に優れる「DC-1079」（渡辺農事(株)）、「紅まどか」（住化農業資材(株)）、「ローラ」（みかど協和(株)）、「THC202」（(株)トーホク）、「クリスティーン」（みかど協和(株)）、「雪馬」（タキイ種苗(株)）、「うまべに」（小林種苗(株)）が優良品種に選定されました。

1 はじめに

千葉県の秋冬どりニンジンのなかでも、8月上旬に播種する年内収穫の作型では生育初期の気温が高く、エクボ症等の高温障害の発生が年によって問題となります。また、近年は生育期間中の長雨に伴う黒葉枯病等の蔓延による減収やしみ症による品質低下も問題となっています。そこで、年内収穫に適した秋冬どりニンジンの優良品種を選定するため、令和元年に第67回千葉県野菜品種審査会が開催されたので、その結果を紹介します。

2 栽培概要

審査会には24品種が出品され、栽培は当研究室（香取市）の黒ボク土露地畑ほ場で行いました。播種は8月6日で、栽植様式は畦幅75cm（条間15cm、株間7cm）の2条播きとしました。栽培期間中、3度の台風の上陸、接近に伴う強風や大雨で土壌の流出による根部露出や湛水による黒葉枯病の発生がみられ、平年よりも肥大が遅くなりました。

3 審査結果

審査は、12月12日に行われました。ニンジンの草姿、根部の肥大性や外観品質等を審査した結果、7品種が入賞し、第1位から「DC-1079」（渡辺農事(株)）、

「紅まどか」（住化農業資材(株)）、「ローラ」（みかど協和(株)）、「THC202」（(株)トーホク）、「クリスティーン」（みかど協和(株)）、「雪馬」（タキイ種苗(株)）、「うまべに」（小林種苗(株)）となりました（写真、表）。



写真 1位入賞の「DC-1079」

4 入賞品種の特徴

入賞した7品種は黒葉枯病や黒斑病による黒葉枯症状の発生が少なく、肥大が良く収量が多い傾向がありました。「DC-1079」、「クリスティーン」、「紅まどか」、「ローラ」は根重が130g以上と肥大が良好でA品率75%以上と高く、エクボ症については、「ローラ」、「クリスティーン」、「DC-1079」で発生が5%以下と発生が特に少なくなりました。

5 おわりに

以上のように、台風被害の多かった令和元年の栽培条件下で肥大性や外観品質の優れた7品種が入賞し、現地への普及が期待されます。現地導入に際しては試作を行い、年次間差等を事前に確認することが望まれます。

表 入賞品種の収穫時の根重、収量、A品率、主な病害及び障害の発生率

順位	品種	出品社名	審査結果			根重 (g)	収量 (kg/10a)	A品率 (%)	黒葉枯病・黒斑病の発病度	主な根部病害・障害の発生率(%)			
			立毛	収穫物	合計					エクボ症	しみ症	岐根	裂根
1	DC-1079	渡辺農事(株)	87.1	244.8	331.9	139	4,835	89	33	5	16	0	0
2	紅まどか	住化農業資材(株)	83.6	241.0	324.6	131	4,469	78	33	13	17	2	0
3	ローラ	みかど協和(株)	80.2	236.5	316.7	131	4,541	81	35	2	9	5	2
4	THC202	(株)トーホク	75.2	238.6	313.8	122	4,195	71	37	27	10	1	0
5	クリスティーン	みかど協和(株)	79.8	232.9	312.7	133	4,495	81	37	4	6	4	2
6	雪馬	タキイ種苗(株)	78.6	229.4	308.0	112	3,850	81	46	9	8	4	0
7	うまべに	小林種苗(株)	85.5	221.7	307.2	126	4,138	82	18	12	11	2	0

注1) 令和元年8月6日播種、12月12日収穫。10a当たり施肥量は、県の施肥基準に基づき、窒素10kg、リン酸25kg、加里10kgとした。

注2) 収穫物審査に供したすべての株を調査した。A品は外観形状に優れ、障害の発生が軽微又は無いものとした。

注3) 黒葉枯病・黒斑病の発病度は11月21日に中位2葉の発病程度を指数0(無)~3(大)の4段階で判別し、次式から算出した。

発病度=(Σ(指数×発生程度別株数)/(調査株数×3))×100

野菜ニュース



異常気象でも着果安定！ ハウス抑制トマト栽培の高温障害対策

千葉県農林総合研究センター
野菜研究室 研究員 橋本 奈都希

近年、最高気温が35℃以上となる猛暑日が増加し、ハウス抑制トマト栽培において、着果不良などの高温障害が発生し、良品率の低下による出荷量の減少が問題となっています。そこで、対策のポイントを紹介します。

1 はじめに

東京都中央卸売市場における千葉県産トマトの9月から11月の月別出荷量は全国1位から3位（市場統計情報、平成30年）と長年トップクラスのシェアを維持しています。しかし、この時期の栽培では、近年、夏の猛暑日により着果不良などが発生し、良品率の低下や出荷量の減少が大きな問題となっています。

2 高温障害対策のポイント

本県トマトの主要な作型である抑制栽培で問題となっている高温障害対策には、遮光とこまめなかん水が重要です。この2つの技術のポイントを紹介します。

(1) 遮光資材は8月中旬に撤去しましょう

抑制栽培ではハウス内の気温を下げるため、定植時から遮光率40%前後の遮光を必ず行いましょう。しかし、遮光を9月まで続けると光合成不足を起こし、着果数が減少してしまいます。これを防ぐために、遮光資材は8月中旬に撤去します。9月になれば群落が完成しているため、果実に直射日光が当たることは減少し、高温障害による規格外果（裂果など）の発生は増えません。

(2) pFメーターを設置し、こまめにかん水しましょう

7月下旬頃から8月末までは高温による土壌の乾燥が激しく、着果不良や尻腐れ果の発生が多く見られます。その対策として一回5~10ℓ/m²のかん水をこまめに行うことが有効です。土壌の水分状態は目視ではわかりにくいので、pFメーターの

感受部を地下15cmに設置し（図1）、黒ボク土の場合は指示値が1.8~2.3の間に収まるように週2、3回の頻度でかん水しましょう。これによって、総かん水量を同じにして週一回にまとめてかん水する場合に比べ13%増収する試験結果が得られています（図2）。

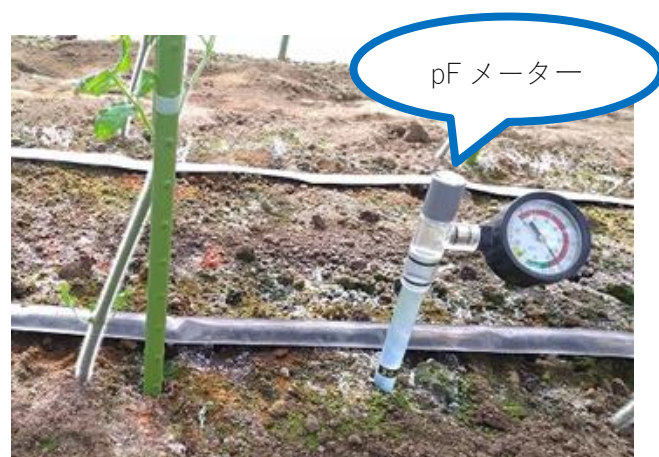


図1 トマトの株元に設置したpFメーター

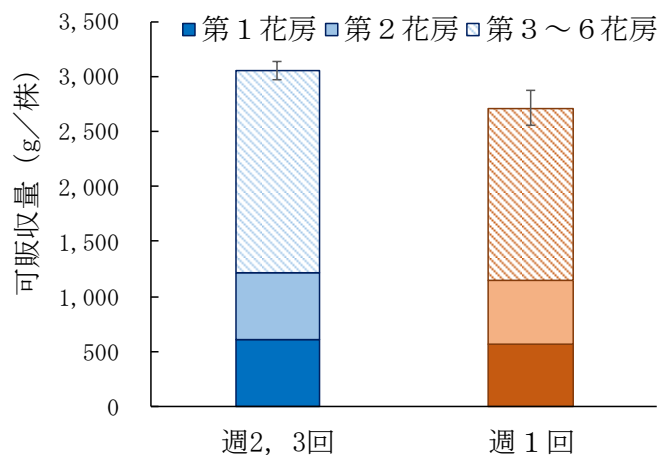


図2 かん水回数の違いが可販収量に及ぼす影響

頑張る産地



梨産地の活性化を目指して ～木更津市での取組～

君津農業事務所 改良普及課
普及技術員 田中 智貴

市内に3つの梨組合を抱える木更津市では、老木化などの産地の抱える様々な問題の解決を図るため、3梨組合合同で新たに果樹産地協議会の設立に向けて取組を始めています。

1 背景

木更津市には、富来田梨栽培者組合、中郷梨組合、矢那梨組合の3つの梨組合があり、合わせて35戸で梨を生産しています。庭先での直売を中心に販売を行っており、アクアラインも近いことから市内だけではなく県内外からの来客も多い地域です。

しかしながら、各組合とも樹の老木化や後継者不足等の問題を抱えており、特に老木化は収量の減少に直結するため、深刻な問題となっています。

老木化を解消するためには改植が必要ですが、梨を含む果樹は、植え付け後に苗木が成木になるまでは収益が得られないことや、改植時の労力的な問題から、改植が進まない状況が続いています。

2 改植と省力化樹形導入の取組

木更津市での改植の取組の1つとして矢那梨組合の安西潔行さんがJVトレリスという手法の梨のジョイント仕立ての栽培を導入し、早期成園化と省力化に取り組んでいます。慣行の栽培では、成園並みの収量となるまで10年程かかりますが、ジョイント栽培を導入した場合は、5～6年程で成園並みの収量が取れるようになります。作業動線も一直線で



安西潔行さんと幸水のジョイント栽培

わかりやすく、パートや初心者でも作業しやすいことに加え、作業時間も大幅に削減できます。

安西さんはジョイント栽培を導入後4年目となり、今年は少量ですが初収穫を迎えます。今後も更にジョイント栽培等の省力化樹形の導入を増やし、老木化の解消と更なる省力化に向けて改植を進める予定です。

木更津市では、地域外から梨栽培での新規参入を目指して研修を開始されている方やこれまで梨生産に関わってこなかった後継者も含め、省力化樹形の導入を検討している生産者が増えています。

安西さんのジョイント栽培が地域のモデル事例となることが期待されます。

3 産地での新たな取組

このような状況の中、産地の維持・発展のため木更津市の3梨組合合同で果樹産地協議会の設立に向けての取組を進めています。果樹産地協議会には3梨組合に加えて、木更津市の梨生産に係る関係機関が構成員として参加し、産地の5年後10年後の姿や、果樹振興について意見を交換して、果樹産地計画を作成する予定です。また、作成した産地計画の達成に向けて意識の醸成・情報共有等を行うなど、産地維持・発展に向けた体制づくりを進めていきたいと考えています。更に、改植時にかかる費用や改植後の未収益期間の栽培管理経費の支援を受けることができる国の事業の導入も視野に入れていきます。

産地では、老木化や後継者問題などの産地の問題を解決していくとともに、千葉県育成の「秋満月（あきみつき）」のような新品種の導入なども契機に、更に梨産地として発展できるよう取り組んでいきます。



梨新品種「秋満月（あきみつき）」 デビューに向けた生産拡大の取組

千葉県農林水産部生産振興課
園芸振興室 主査 鈴木 隆洋

県では、令和3年度にデビューを迎える梨新品種「千葉K3号（愛称：秋満月（あきみつき）」の生産拡大に向け、苗木確保や技術習得などの取組を行ってきました。千葉県果樹園芸組合連合会との連携では、枝接ぎと芽接ぎの事例調査及び講習会を各産地で実施し、生産拡大に向けた各接ぎ木技術の導入推進を図ってきました。

1 取組の背景

千葉県の梨生産は「幸水」「豊水」等の主要品種を中心に8月から本格出荷が始まりますが、収穫後半となる9月下旬以降は、ぶどうや柿など他品目の出荷も本格化することから優良な新品種の開発が求められていました。そうした中、県が育成した晩生の新品種「千葉K3号（愛称：秋満月（あきみつき）」が令和3年秋にデビューすることとなり、県では栽培技術の普及や生産の拡大に向けた取組を進めてきました。

2 生産拡大に向けたこれまでの取組

県では原種配付対策事業により、令和元年から梨生産者への苗木配付を行ってきましたが、生産量の拡大を図るため、併せて高接ぎ更新等を推進してきました。

令和2年度には千葉県果樹園芸組合連合会と連携して、枝接ぎと芽接ぎ技術の事例調査を行い、各接ぎ木技術の活着状況等を把握しました。

枝接ぎ事例調査では、県内産地の6名のほ場について、接ぎ木実施後の活着率及び管理ポイントについて調査を行いました。平均の活着率は59%でしたが、各技術による活着率は大きく異なり、切り接ぎ・剥ぎ接ぎでは8割を超えたのに対し、腹接ぎでは3割以下と低く、台木と穂木の間に隙間を作らないことなどの課題が明らかとなりました。

芽接ぎ事例調査では県内産地の4名のほ場について、接ぎ木実施後の活着率や作業のポイントを調査



最も活着率の高かった
「切り接ぎ」

しました。実施者の技術が高かったこともあり、どのほ場の活着率も高く(平均活着率78%)、技術習得すれば品種更新の有効な手段となることが分かりました。

さらに各産地にて接ぎ木実演会を開催し、接ぎ木技術の普及を行うと共に、各産地に「秋満月」高接ぎモデル樹を設置しました。芽接ぎ実演会では5産地で参加者49名、接ぎ木箇所88か所、枝接ぎ実演会では10産地で参加者138名、接ぎ木箇所272箇所の実績となりました。実演会を通し、「秋満月」の生産力増加に向けた接ぎ木技術の普及と併せ、多くの接ぎ木モデルを各産地に造ることができました。



実演会の様子

3 今後の取組

デビューを控えた令和3年には、千葉県果樹園芸組合連合会や果樹連なし部会の下部組織であるなし研究部との連携による栽培研修会を農林総合研究センターで6月に開催し、品種の栽培特性や技術習得の推進を図りました。栽培特性としては果実障害である「みつ症」の発生が課題となっており、現地での果実調査を実施して対策の検討を進めているところです。

さらに大苗による生産拡大を促進するため、大苗供給施設設置への支援を行い「秋満月」での大苗確保に向けた調査を実施しています。

県では、今後も優良品種の導入による改植・早期成園化の取組を推進し、梨産地の振興と生産者の経営安定に向けて取り組んでまいります。

房総スタンプラリー ～ブルーベリー狩り～

千葉県農林水産部流通販売課

平成25年度から、三井アウトレットパーク木更津(MOP木更津)と周辺のブルーベリー園が連携したスタンプラリーが実施されています。

昨年は17農園がスタンプラリーの対象となり、410人の参加がありました。



※チラシは昨年のものです

【令和3年度の スタンプラリーについて】

期間 7月中旬～9月上旬まで(予定)

スタンプラリー参加方法

「チーバくんプラザ」と、対象となる「ブルーベリー園」の両方でスタンプを押すと、2つ目のスタンプを押した施設で特典を受けることができます。

問合せ先

「チーバくんプラザ-千葉県観光情報館-」※

電話 0438-53-8262

※ 県、MOP木更津周辺4市でMOP木更津に設置した、千葉県の観光PRを目的とした情報館。

備考

- ・開催時期や内容等に変更が生じる場合があります。開催時期や内容等については、MOP木更津ホームページでも紹介される予定です。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、御参加の際には各農園の取組に御協力をお願いします。

千葉なし味自慢コンテスト 開催のお知らせ

千葉県農林水産部生産振興課

千葉県の梨は、産出額で全国一を誇っており、その品質は、「味が自慢の千葉の梨」として、消費者や市場から高い評価を得ています。梨の旬であるこの時期に、県内の産地から選りすぐりの梨を集めた「千葉なし味自慢コンテスト」が開催されます。

このコンテストは、県内で生産される梨の品質向上と消費拡大を目的に毎年開催しています。

本年は、肉質がきめ細かで甘味が強く、人気の高い「幸水」を対象に、県内産地から100点を超える厳選された梨が集まります。8月1日にはコンテスト出品物の即売も実施予定です。味が自慢の千葉の梨を是非御賞味ください。

たくさんの皆様の御来場をお待ちしております。

1期日

令和3年7月31日(土)～8月1日(日)

31日(土) 専門家による審査

審査の様子を御覧いただけます。

1日(日) 午後から、出品物の即売

2会場 イオン津田沼店1階センターコート
(新京成線新津田沼駅下車徒歩2分)

3問合せ先

千葉県農林水産部生産振興課

TEL: 043-223-2872



専門家による審査・上位3賞の出品物(令和2年度)

第68回(令和2年度)千葉県野菜品種審査会の開催結果

千葉県農林水産部生産振興課

千葉県野菜品種審査会は、県内の野菜産地に適した優良品種の選定と野菜種子の素質改善を通じ、県産野菜の品質向上と野菜産地の振興を図ることを目的として、千葉県、日本種苗協会千葉県支部、公益社団法人千葉県園芸協会の共催により、昭和27年から開催しています。

令和2年度は、にんじん(春夏どり栽培)、未成熟とうもろこし(マルチ栽培)、キャベツ(秋冬どり栽培)、ほうれんそう(2月どり栽培)の4品目で実施しました。

延べ43社から総計114点の出品があり、農林水産大臣賞をはじめとする特別賞5点、金賞8点、銀賞11点が決定しました。

賞名	品目	品種名	出品会社
農林水産大臣賞	にんじん	THC809-L	(株)トーホク
関東農政局長賞	ほうれんそう	雷電13	ナント種苗(株)
千葉県知事賞	とうもろこし	サニーショコライラ	みかど協和(株)
千葉県議会議長賞	キャベツ	初恋	(株)トーホク
一般社団法人日本種苗協会長賞	ほうれんそう	バートン	住化農業資材(株)